

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400713		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホームひまわり荘福崎の家		
所在地	神崎郡福崎町西田原字前田1693-1 (電話) 0790-24-0400		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年9月8日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(平成20年8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	5.52人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	4階建ての	~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円・39,000円・45,000円	その他の経費(月額)	約22,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.1歳	最低	72歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田隅内科・田隅歯科・アキタケ外科
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは福崎町の中心部に近く、付近には町役場、大型スーパー、小学校等の社会資源に恵まれる一方、畑、神社等の自然環境にも恵まれている。ホームは4階建てビルの2階部分にあり、1階では同一法人がデイサービスを提供している。法人の母体は医療機関で他に特別養護老人ホーム、グループホーム等を運営している。当ホームでは家庭的な雰囲気を大切に、家庭に近づけるようなケアに努めている。1階のデイサービスではかさがた温泉の湯を使用しており、ホーム利用者も温泉を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	一昨年の第三者評価の課題であった「地域とのつきあい」でまつり(利用者の作品展等)が始まり、他の課題についても改善に向け取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は管理者が職員の意見を聞きながら纏めた。夫々の項目をどう理解すべきか等、話し合う過程ですりあわせを行った。また、今回の第三者評価でより理解が深まった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議ではホームの事業計画や運営方針をはじめ、第三者評価受審の件等を話し合い、そこで出された地域とのつながりを深めるための提案等を運営に活かしている。今後、地域とのつながりをさらに深めるために地域の民生委員や当地区の自治会へ参加を呼びかけると共に、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2カ月に1回以上開催することが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族訪問時には意見苦情等を気軽に言ってもらえる雰囲気作りを行っている。また、年2回家族会を開催し、家族の意見を伝えられる機会を設けている。訪問時や家族会で出た意見等はホーム職員会議で検討し、事例によっては法人の上部組織へ相談し、改善に向け取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	年に1回まつり(利用者の作品展等)を開催し、地域住民との交流を図っている。本年はボランティア協力の下に模擬店を開催したり、近くの小学校の運動会に参加する計画がある。今後、運動会への参加を機に、PTAのリサイクル活動への参加や地域の清掃活動への参加等、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担うことが期待される。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム設立時から法人の理念である「人間の尊厳を守る介護の実践」をホームの理念として継承し、日々その実践に取り組んでいる。		グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられて2年が経過したこともあり、法人の理念を根幹にしつつ、地域密着型サービスとしての役割を具現化したホーム独自の理念をホーム関係者全員で検討しながらつくりあげることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念の作成は今後の検討課題であるが、現理念についてはホーム職員会議や日々の利用者との関わりの中で職員間で話し合い、理解を深め共有している。トイレ誘導時等利用者と接する時には声かけや態度に「人間の尊厳を守る介護の実践」という理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1回まつり（利用者の作品展等）を開催し、地域住民との交流を図っている。本年はボランティア協力の下に模擬店を開催したり、近くの小学校の運動会に参加する計画がある。地区の自治会には加入していない。		運動会への参加を機会にPTAのリサイクル活動への参加や地域の清掃活動への参加等、共に暮らす地域住民の一員として、さらに地域で必要とされる活動や役割を担うことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者が職員の意見を聞きながら纏めた。夫々の項目をどう理解すべきか等、話し合う過程ですりあわせを行った。また、今回の第三者評価でより理解が深まった。一昨年の第三者評価での課題であった「地域とのつきあい」でまつり（利用者の作品展等）が開催され、他の課題についても改善に向け取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者・家族代表をはじめ地域包括支援センター職員、自治会長(当地区でない)等の参加を得て概ね4ヵ月に1回開催している。ホームの事業計画や運営方針をはじめ、第三者評価受審の件等を話し合い、そこで出された地域とのつながりを深めるための提案等を運営に活かしている。</p>		<p>地域とのつながりをさらに深めるためにも、地域の民生委員や当地区の自治会へ参加を呼びかけると共に、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2ヵ月に1回以上開催することが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>機関紙を町の担当窓口へ持参し情報提供を行うと共に、町外のホーム利用希望者の利用手続きの相談等で町との連携に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態や暮らしぶりについて家族訪問時や電話で随時報告し、預かり金(全員通帳管理)については毎月1回通帳のコピーと共に領収書を添付して家族に送り、収支内容を確認してもらっている。また、職員の異動については、訪問時に異動の報告と紹介を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時には「何でも遠慮なく言って下さい」という声かけと共にお茶を出して、意見苦情等を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを行っている。また、年2回家族会を開催し、家族の意見を伝えられる機会を設けている。訪問時や家族会で出た意見等はホーム職員会議で検討し、事例によっては法人の上部組織へ相談し、改善に向け取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を防ぐために、法人内で親睦会を開催したり、職員会議等で職員が意見不満等を自由に言える雰囲気作りに努め、職員のストレス解消に取り組んでいる。また、異動時の職員紹介はきちんと行い、法人内ホームからの応援は同じ職員に来てもらう等、利用者への異動等による影響を防ぐ配慮をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任の職員には法人内特別養護老人ホームと合同で新人研修を行い、また月1回の法人職員会議を利用して現任職員の内部研修を定期的に行っている。職員のキャリアと必要に応じ「認知症介護実践者研修」をはじめ、外部研修の情報を提供し、希望者には積極的に参加させている。受講費用等は法人が負担し、職員の育成に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内グループホームとの交流は行っているが、法人外では町外のホームの見学を行い意見交換を行った。しかし、町内等地域の同業者との交流の機会を持つには至っていない。</p>		<p>法人外の地域のグループホームとも交流する意義を理解し、町の担当窓口にも呼びかけ、町内や地域のグループホーム連絡会の組織化等の活動を通じて、グループホーム相互の発展向上に取り組むことが望まれる。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心納得してスムーズに利用できるように、利用前には自宅等をケアマネジャーと帯同訪問し、ホームに馴染めるか家庭環境の確認や話し合いを行っている。その後、利用者家族の見学、居室が空いているときにはショートステイの利用等、利用者が徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「共に過ごし、学び、支えあう」関係を日々の暮らしの中で築くことが大切と理解している。この様な関係を築くためにその人の得意なことや趣味等を家族から聞きとり、また日常の関わりの中から知り、手芸の得意な利用者から技術やアイデアを学んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回利用者の意見や希望を話し合う「寄り合い」を開催し、意向や希望を聞いている。そこではその日の利用者の状況に応じてイスの配置を工夫して、意向や希望が出やすいように工夫している。また、意志の疎通が難しい人には利用者のつづやきや料理の本を見て指を指してもらう等思いや意向を確認し、表出された時はすぐカレンダー等に記録している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のバックグラウンド等の情報をできるだけ多く収集し、多角度から分析して6ヵ月から1年間隔で介護計画書を作成している。利用者・家族の意向・意見を反映しつつ、医療面で課題のある人はかかりつけ医にも相談し、デイサービスを利用していた人は、そこでの職員とも話し合い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間毎は勿論、利用者の状況に変化が生じた時は、その都度ホーム職員会議や毎日のミーティングでケア内容を実情に即したものに見直している。そこで話し合った具体的な支援内容を会議録や引継ぎ簿に新たな計画として記録に残し、職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が徐々にホームに馴染めるようショートステイを利用してもらったり、家族の都合や車イス対応車が必要な時などホームの職員が通院介助を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・家族の希望によりかかりつけ医を決めており、利用前からの馴染みの医師をかかりつけ医としている人もいる。また、通院介助の方法と受診・受療結果の報告の方法について入居時に話し合っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「終末期看取り等についての事前確認書」で利用者・家族の希望、意向を確認している。本人・家族の希望や意向、状態が変化した時はホームとしての対応方針を説明の上、かかりつけ医や関係者と繰り返し話し合い、その内容を介護記録・引継ぎ簿に記録として残している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の利用者との関わりの場では「だめ」「しないで下さい」等の言葉を避け、利用者の誇りを傷つけないよう努めている。また、機関紙にはできるだけ名前は掲載せず、写真等は事前に利用者・家族の了解を得て掲載している。個人記録等は職員ステーションに保管している。</p>		<p>職員ステーションは、食堂等の利用者や第三者が出入りする共用部分と障壁が無く、保管庫も無施錠の状態であるため個人記録が保管されているので、記録等の保管時には施錠する等プライバシーの確保についての配慮が望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員が一人の時間帯以外は、外出の希望があれば本人の気持ちを尊重してすぐ外出につき添ったり、朝食の時間は利用者の希望に沿って食事ができるよう時間帯を広く設け、その人の生活習慣を尊重する支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的には特別養護老人ホームの管理栄養士が立案しているが、「寄り合い」で聞き取った希望を取り入れたり、随時食べたいものに変更している。週2回食材の買い出しに利用者も出かけ、調理、盛り付け、配膳、後片付け等を手伝っている。食事作りに利用者が参加しやすいように、座位・立位等に応じて高さが変更できるテーブルを配置している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	寝る前に入浴の希望がある人もいるので、午後7時30分以降は職員ひとりでの対応であるが、8時30分まで入浴ができるよう支援している。浴槽での座位が難しい人や歩行が難しい人には、階段状のスロープになっているデイサービスの温泉やリフト浴を利用している。また、入浴を嫌がる人には夫々の理由に応じた対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導の役割、楽しみごと等にならないよう「寄り合い」で聞き取ったり、日々の暮らしの中から一人ひとりの役割、楽しみごと等を把握するよう努めている。お茶の先生にはお花を生けてもらう等、利用者が日々の生活に張り合いや喜びが持てるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状態、天候等の状況に応じて散歩・買い物・外食等利用者が外出を楽しめるよう支援している。歩行が困難な人には車での食材の買い出しに優先的に行ってもらえる等の配慮をしている。また、近くの散歩等以外に入居前の馴染みの店へ行きたいという希望もあるので、そのような外出支援も計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の手前の、のれんには鈴を付け、玄関とエレベーター前にセンサー、職員ステーションにモニターを設置することにより、日中は玄関に施錠していない。外出を察知した時はさりげなく外出に付き添うが、一人での外出を好む人には少し距離を置いて付き添い、途中で偶然出会ったように振舞って、一緒にホームに帰るなど鍵をかけない工夫をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災・地震の対応マニュアルを作成し、今年度、今までに通報訓練と夜間想定避難訓練を2回実施した。今年度中に避難訓練・消火器訓練・地震訓練を3回行う計画で計画書も作成している。</p>		<p>今後、運営推進会議を通じて地域の人達への災害時の協力依頼や共同訓練の呼びかけ等が期待される。また、機会ある毎に職員間で災害時の対応方法を話し合い、実際に避難誘導できる方法を身につけることが望まれる。非常用食料や備品もホームで準備しておくことが期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は一人ひとり把握し、水分量は10時・15時・食事時・入浴後・外出後に補給してもらい、不足しないよう配慮している。栄養バランス等は特別養護老人ホームの管理栄養士が専門的な立場からチェックしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>すぐにエアコンを使用すると利用者の季節感を疎外するので、暑い・寒いをできるだけ肌で感じられるようエアコンの使用タイミングを工夫している。畳のスペースが食堂に隣接し、そこで利用者が萩や菊の花を生けたり、洗濯物をたたんだりしており、生活感や季節感が醸し出されている。浴室の壁材はひのきで、浴槽も家庭的な個浴用である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム側から家族に利用者が家庭で使い慣れたものを持ち込むよう依頼しているが、持ち込まれたものはテレビ・時計等総体的に少ない居室となっている。</p>		<p>利用者の馴染みのものや、好みのもの、使い慣れたもの等を家族や本人と相談しながら持ち込んでもらい、利用者一人ひとりの心が和み、その人らしく過ごせる居室となる取り組みを今後も進めていくことが期待される。</p>

 は、重点項目。